

平成30年度 宮城県公立高等学校

前期選抜講評

仙台あおば学舎 講師陣による 前期選抜講評

今年度も、あおがくの

前期選抜講評が、読売新聞に掲載されました。

【国語文責】吉田宙史

【数学文責】池田慎太郎

【英語文責】豊巻奈緒子

平成30年2月1日 読売新聞 朝刊

公立高で前期入試

74校に8340人が挑む

県内の公立高校74校で31日、2018年度前期選抜試験が行われ、8340人が挑んだ。全日制は4814人の募集に対し、8126人が受験し、平均倍率は1.69倍(前年度1.64倍)。定時制は296人の募集に214人が受験し、平均倍率は0.72倍(前年度0.66倍)だった。

前期選抜試験は、各学校が設定した内申点などの条件を満たす生徒が受験できる。国語、数学、英語の3教科の共通問題と、面接や小論文といった学校ごとに独自試験が行われた。受験倍率は、仙台・普通科で7.08倍、宮城農・食品化学科4.38倍、仙台三・普通科4.17倍と続いた。

最も受験倍率が高かった仙台一高(仙台市若林区)では、64人の募集に対し453人が受験した。緊張した面持ちの受験生たちは校門前で待つ20人以上の進学塾の講師に「きょうは落ち着いて」と激励され、校舎へ向かった。市立多賀城中3年の鈴木椋君(15)は「ずっと行きたいと思って

いた憧れの学校。全力を出し切れるよう頑張りたい」と意気込んでいた。合格発表は8日午後4時に、各学校で行われる。

出題方針と講評

県教育委員会に各教科の出題方針を聞き、学習塾「仙台あおば学舎」の講師陣に問題を講評してもらった。

国語

【出題方針】第1問は、登場人物の心情などを読み取り、適切に表現する力をみた。第2問では、書き手のものの見方や考え方を的確に捉え、適切に表現する力を測った。第3問は、中学校のクラスで行われた報告会のリハーサルを題材に、言語の知識を活用する力や、目的や相手に応じて説明を工夫し表現する力をみた。第4問は、基礎的な漢字を読み書きする力や行書の特徴、歴史の仮名遣いなどの知識や理解を深めた。第5問の「漢文」は、古典の基礎的知識や理解を基に内容を把握し、古人の考え方を的確に捉える力を

基礎レベルの文法も試した。

第1問の文学的文章は、吹奏楽部で奮闘する高校1年生の主人公の不安や喜びの感情を読み取り、記述形式で表現できたかが鍵となる。第2問では、活躍した写真家の著書から、日本を代表する写真家が考える「写真」と「ことば」という異なる「記号」を正確に読み取る必要があった。

第3問は、毎年出題されている「話す・聞く」に関する問題。聞き手に説明する上で工夫を読み取り、考察できるかが問われた。第4問では、漢字の出題と基礎レベルではあるが、文節・品詞などの文法の問題が出題された。

第5問は昨年度に引き続き「漢文」が大問として出題された。基本的内容が多

数学

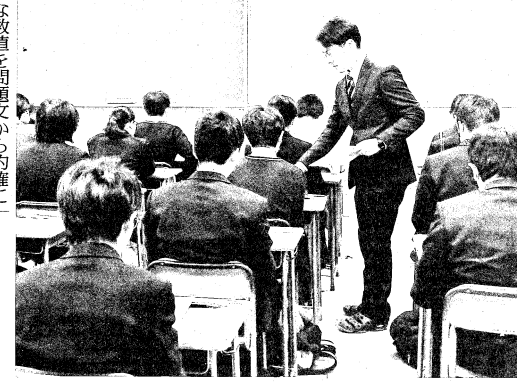
【出題方針】計算、図形、関数・資料の活用について、基礎的な知識や考察する力をみることを狙いとした。

第1問では、反比例の比例定数を求め、順序よく整理する力や活用力を測った。

第2問は、空間図形を考察し、図形の面積の関係を式にする力などが求められた。第3問では、変化率についての数量関係を式やグラフとして表現する力や、条件に合わせて論理的に考える力をみた。第4問では、三平方の定理を使い線分の長さを求める力や、円周角の基本的な知識を活用して答えを導き出す力をみよう

英語

【出題方針】第1問は、絵を見て、会話の内容を理解する力や、質問や会話の流れを読み取り、適切に答えられるかをみた。第2問では、基本的な文法や語法に関する知識や語彙力を測ることにした。第3問は、顔を合わせた話すことの大切さに気づいた高校生の英文を題材に、全体的な内容を読み取る力を深めた。第4問では、屋敷林についてスピーチを準備する高校生が留学先にその内容を説明する会話文を使い、話の展開を理解する力や英文の構成力を試した。第5問では自分の考えを簡潔にまとめ、表現する力をみた。



公立高の前期選抜入試に挑む受験生(31日、仙台市若林区の仙台一高で)

公立高入試問題と正解 別刷り特集面に掲載

【出題方針】第1問は、な数値を問題文から的確に拾い出せたかがカギ。第4問では、後半の面積を問う問題の難易度が高く、正答率も低くなったとみられる。

【池田慎太郎講師】

全体としては、知識よりも、応用問題で考える力が求められた。

第1問は、計算、基本問題が中心で難易度も例年通りだったが、後半は若干難易度が高い。確率や角度の計算も応用力を問われた。全体を通して「考える力」を測る傾向にあった。

第2問は例年に比べ、単純な計算が減り、難易度が上がったといえる。前半は基本に沿えば難しくはないが、後半は体積から高さを逆算する、面積比から座標を導き出す、などの応用力を試す問題が続いた。

第3問は、精米機2台の作業時間と残量の関係性を取り上げた。後半の時間を求める問題は、答えに必要

後半は読解力で明暗は全体の構成や問題数に変化はなく、前半は基礎力があれば解答できた。時間配分を含め、話の流れや登場人物の感情を把握する読解力が必要とされた第3、4問が明暗を分けただろう。

第1問では、短い会話文の中で適切な英文や強調する単語を選ばせた。第2問は、頭文字から単語を導き出す形式。複数形にする点を見逃し、失点となる生徒もいただろう。

第4問では、並び替え問題やや難易度が増した印象を受けた。受け身や不定詞の使い方が、いくつかの文法知識を複合せない」と正答にたどり着けなかった。

第5問は、ホームステイ中の友人との会話文に絡めた英作文。文の前後関係を把握できれば、比較取り組みやすい内容だった。

(第3種郵便物認可)

チーム指導が活きる
5科目 **10,000**円/台
進学塾 仙台あおば学舎
個別指導の仙台あおば学舎